



市長日記

### 産学官金連携の結実

令和4年度に地元の高校生と企業が連携し開発したラスクとドーナツの試食と、第9回商業高校フードグランプリ本選に進出した令和3年度開発商品の結果報告を受けました。

商品は食品そのものだけでなく、包装や流通なども検討を重ね開発されました。地域資源を活用し開発した商品で、市の魅力を全国に発信していくことを期待します。



令和4年度に開発した新商品の説明を受ける田中市長(12月13日)。



まちの話題や  
出来事を  
紹介します

# たうんとぴっくす

TOWN TOPICS

今月の1枚



市のプロモーション動画が「日本地域情報コンテンツ大賞2022」で動画部門最優秀賞を獲得しました。若者へ向けた斬新な情報発信方法、高いクオリティの動画が評価されての受賞です。市では、今後も安来の魅力を広く発信していきます。 オンライン授賞式：11月28日



このマークの記事は、関連写真を「市公式フェイスブック」で公開しています。



▲石原代表取締役社長(右)から田中市長(左)へ寄贈品の目録が手渡されました。

### 安全守り灯る明り

市民の安心・安全のため、12月23日にやすぎどじょっこテレビを運営する山陰ケーブルビジョン株式会社から、安来市にLED防犯灯が寄贈されました。防犯灯は令和4年10月に同社が支援したどじょっこ祭で、やすぎどじょっこテレビ出店ブースの売り上げから購入されています。同社の石原代表取締役社長は「今後も市民の役に立つケーブルテレビとなるよう活動していきます」と話していました。

寄贈された防犯灯は20灯。市内小中学校や公共施設などへの設置を計画しています。

安来のまちと未来を明るく照らそうと、安来商工会議所青年部により安来庁舎周辺にイルミネーションが設置されました。12月4日には点灯式が行われ、約400人が来場。イベント内のライブペイントに参加した高橋二瑚さんは「うさぎとハートを描きました。たくさんの方が見てくれるとうれしいです」と話しました。

情報科学高校の生徒がデザインしたフォトスポットや、市内の保育園児が絵を描いたカプセルイルミネーションなどを楽しむ人々がみられました。



### 心温まる優しい光

▲イルミネーションの設置期間は1月15日まで。約65,000球のLEDが夜を照らしました。



## 山陰の自慢品集う市

▲JR西日本のブースの制服着用体験、山陰を走る電車などの缶バッジ作りを楽しむ子どもたち。

山陰を愛する生産者の想いを詰めた商品が集まる「山陰いいものマルシェ」が12月11日に中海ふれあい公園で開催されました。安来市での開催は平成28年度以来2回目となります。

天候不良により半日ほどの実施となりましたが、山陰が誇る商品を販売する30店舗の出店や、伯太太鼓の演奏などで会場は大賑わい。松江市から訪れた福田翔大さんは「高校でチラシを見てこのイベントを知りました。1品だけ食べてみましたがとてもおいしかったです」と話していました。

子どもたちに運動の楽しさを知ってもらおうと、「SOMPPOボールゲームフェスタ」を12月17日に、広瀬中央公園総合体育館で開催しました。

午前の部には年長児から小学3年生までの子どもたちとその引率者ら32組64人が参加し、じゃんけんを使った“からだ遊び”などを体験。元サッカー日本代表の佐藤寿人さんや元ラグビーのトップアスリートが指導していました。

安田岳歩さんは「子どもとふれあう時間が少なかったので、いい機会になりました」と話していました。



## プロが指導し、楽しく運動

▲親子でのたくさんのふれあいに、子どもたちはとても楽しそうに体を動かしていました。

安来高校の生徒が企画立案した漫画「今日から安来節宣言（せん〜げ〜ん♪）！」が完成し、12月12日に生徒たちが田中市長へお披露目しました。

この漫画は安来節演芸館を舞台に高校生が安来節名人を目指す青春ストーリー。令和3年度に当時の同高校1年生4人が総合的な探究の時間で企画し、安来節演芸館の来場者を増やす目的で制作しました。

安来高校2年吉田来騎さんは「恋愛要素を取り入れた。特に若い世代の人に手に取ってもらえるとうれしいです」と抱負を語っていました。



## 漫画で安来節をPR

▲漫画のあらすじ、キャラクター設定、キャラクター原画を企画立案した生徒の皆さん。



## ITフェア、対面3年ぶり

▲オンラインと実会場の両方で開催。3年ぶりとなった実会場には約1200人が参加しました。

楽しみながらIT技術を身近に感じてもらうと、12月3日、4日の両日に情報科学高校で「第7回情報ITフェア」が開催されました。

フェアでは、日ごろから情報教育を学んでいる生徒が講師となり、プログラミングやITに関する知識を生かした各種講座などを企画・運営。プログラミングで動くミニカー体験やVR（仮想現実）体験などで来場者を楽しませていました。

寺田悠助さんは「ミニカーを思いどおりに動かすことができ楽しかった」と話していました。